

みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

発行日
平成13年9月1日

<目次>

- | | | | |
|------|--|----|------------------------------|
| P2 | 内山所長ご挨拶
宮島とカラス(その2) | P6 | 包ヶ浦第4回、ホテルの観察
投稿「弥山山頂の梵鐘」 |
| P3 | 弥山登山自然観察会(5/27) | P7 | 私の趣味「切手の収集」
お知らせ 編集後記 |
| P4・5 | JPR第1回(6/3)磯の観察
JPR第2回(7/21)水族館
包ヶ浦事業協力第3、5回 | P8 | 事務局からの連絡事項 |



【ミヤジマシモツケ】バラ科 シモツケ属
Spiraea blumei var. *hayatae*

分布 中国地方西部 宮島周辺では大竹など。

高さ約1mの落葉灌木。花は4月下旬～5月上旬、葉は不揃いの鋸歯を持つ長卵形。

名はこの変種が登録された際、標本が宮島で採集されたものだった事に由来、シモツケは下野国(現在の栃木県)、学名の *spiraea* は螺旋(種)の意味より。同属にアイズシモツケ、エゾシモツケ、トサシモツケなどもある。

獅子岩周辺の群生地付近がサルの餌付に伴い居着いた多くのシカにより、他の低層域の植物とともに食べ尽くされ、宮島では絶滅寸前。

写真:池下 宏 (宮島 三ツ丸子山)

文章:松尾 健司

参考:宮島の植物誌 金井塚 務 1998
:原色牧野植物大圖鑑 1997 等

ご あ い さ つ

環境省 山陽四国地区自然保護事務所長

内山 淳

昨年の7月に山陽四国地区自然保護事務所に赴任して、1年余りが経過しました。

今年の1月の省庁再編では、多くの省庁が統廃合される中、環境庁は環境省に昇格しました。環境問題の重要性が認識されてきたからに他なりません。環境省はこれからも組織が拡大するものと思われませんが、国のできることに限界があります。また、環境省がやるより民間の団体が行う方が適しているものもあると思います。これからは環境省と民間の方々とは、手を携えて自然環境の保全に取り組む時代となってきております。

パークボランティアの皆様方の重要性は、ますます高まっていると思います。環境省が皆様方の力をお借りすることもあります。ボランティアの皆様方の自発的な活動も必要です。

ところで、ボランティア活動は義務感だけでは長続きしません。ボランティアの皆様方

が楽しく活動することが大事だと思います。

また、環境省では今年度事業で広島県の大久野島や、香川県の五色台でビジターセンターを整備中です。大久野島や五色台のビジターセンターを拠点に、それぞれの地区のパークボランティアに活動してもらいたいと思っております。今後、各地区のパークボランティア同士の交流も盛んになればいいと思っております。



JPR第1回任命式(包ヶ浦自然公園)にて

門田利用指導官赴任

環境省 7月1日付人事

空席だった山陽四国地区自然保護事務所の利用指導官に神戸自然保護官事務所より門田和之さんが赴任、早速第2回JPRに出席されました。体験談を交えた楽しい自然解説が印象的でした。

宮島とカラス (その2)

花見堂 英延

前回はカラスの生態みたいな事などについて少し書きましたが、今回はカラスと宮島の関わりについて説明します。

カラスといってまず最初に、御烏喰式(おとぐいしき)を連想された方は宮島通です。御烏喰式は、毎年5月15日宮島の7つの末社を参拝して回る御島廻りの途中、養父崎神社で行われます。

神社の沖合いに団子に乗せた小さな筏を浮かべ、「鳥向楽(ちょうこうがく)」という楽を演奏しながら向かいます。すると、神社奥の森

から1つがいの神鴉(おがらす)が海面すれすれに飛んできて、代わる代わる団子を森へ持ちかえり、なくなるまで続けられる儀式です。この儀式は、厳島神社御鎮座の神話から由来しています。御神祭が宮地を探している時に、カラスが船を先導したと言われています。

カラスは厳島神社にとってなくてはならない生き物なんですよ。

現在厳島神社の入り口の灯籠の上に、鴉が乗っているのがみられます。

弥山 登山 自然観察会

<5月27日>

<観察コース> 宮島栈橋—紅葉谷登山道—弥山登山道—弥山頂上—大聖院コース

<日時・集合> 2001年5月27日 宮島栈橋そば藤棚付近 会員 9:00 一般参加者 9:30

<参加者> 一般参加 23人 パークボランティアの会・事務局 16人

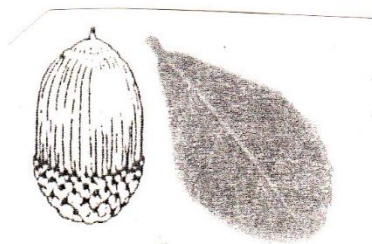
5/27 初めて自前で企画した、一般公募の自然観察会を催しました。企画は観察部会の池下さんが担当。

案内は、5/17の中国新聞と西広島タイムスに掲載していただきました。

安全確認と観察ポイントの選定のため、5/20下見会を11人で行いました。

集合場所で、まずは桧垣自然保護官・横山会長の開会挨拶。つづいて、六重部さんから観察ポイントの注意事項・その他いろいろのお話があって、10時出発。

中道さんから、紅葉谷公園では天皇陛下御行幸の時の逸話や植栽されているモミジの木の由来。そして奥紅葉谷公園では、昭和20年の枕崎台風への対応の話。



ウバメガシ

(当日のテキストより：部分)

・・・いよいよ、自然観察本番

インストラクターは自然観察指導員でもある丸平さん、新川さん、六重部さん。

行程と見られた生き物

すぐアオテンナンショウ・ウリハダカエデ

7号堰堤：カギカズラ・ホウロクイチゴ

8号：大木に寄生、ヤマンバナカミノケ

10号：野生のシカ・ツバキ

11号：昼食・休憩

急坂：ヤマボウシ・イズセンリョウ

14号：ツブラジイ・ミミズバイの上限

15号：リンボク

獅子岩駅道との出合 標識19丁・鞍部：

ハマクサギ・シキミ(毒)・クロバイ

宮島一のアカガシを左手に見ながら：

ハスノカズラ・エゴマ・モミ・カヤ

そして本堂・霊火道を経て山頂へ。

ここでは、それぞれの道の達人が歴史・文化・自然を解説。出発時に宮島に7種のドングリがあるといわれたが、ここまでいくつ観察できただろうか？

帰りは大聖院道を一気に下りる。賽の河原で降り始めた雨は、すぐに土砂降り。7丁展望台で雨具など態勢を整え、栈橋まで直行。16時丁度全員無事到着。幹事より挨拶・解散。



(頂上にて記念撮影)

若干ハードスケジュールだったかな？という意見や感想もありましたが、この計画に携わった者として、初めての計画にしては「ちようじよう！重畳！」。了

(記録と文は村上さんにお問い合わせしました)

海洋生物・漂着ゴミ調査 JPR 第1回

<日 時> 2001年6月3日(土)
 <集 合> JPR8:45 スタッフ 8:30
 <場 所> 宮島町包ヶ浦
 <交 通> 宮島口～JR連絡船
 ～マイクロバス～包ヶ浦(帰りも同様)
 <参加者> JPR44名、同伴者5名
 宇宙船地球号の会
 竹本 伸 川口 辰之進 竹本 京子

包ヶ浦管理センター 呼坂 達夫
 水族館ボランティア 浜井 正章
 環境省 内山 淳 所長 千田 智明
 増田 尚一 桧垣 淳夫
 人間科学研究所 志賀 誠治 内平 八重子
 P V 横山、本田、六重部、矢吹、森
 近藤、末原、小川、新川、名越
 中本、野呂田、松尾 (13名)

＝活動内容＝

※任命式 10:00～

今年は2ヶ月早いJPRのシーズン、応募者
 100名以上から選ばれた子どもは47名。当日子
 どもは8時から集まり、40分には集合完了。包ヶ
 浦に到着後山陽四国地区事務所長による任命
 式が行われました。軽いゲームで心と体をリラク
 ス、自己紹介。班に愛称をつけ昼食と休憩。

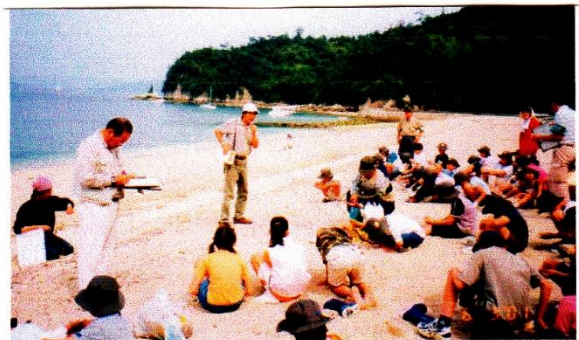
ちなみに 1班 もみじレンジャー
 2班 自然守り隊
 3班 つばめグループ
 4班 リーフ班
 5班 ドラえもんグループ
 6班 力の限りゴーゴゴー

※仲間作り・海洋生物について学習 12:15～

浜ちゃんこと浜井さんが瀬戸内海の海洋生物
 を水産物を中心に解説。そして海藻などの観察
 と採取を行い海藻標本をつくりました。子供た
 ちは真剣でそして楽しそうでした。
 「何人か夏休みの宿題に活用してくれたら…」
 とは桧垣さんや管理センターの呼坂さん。

※漂着ゴミ調査13:50～

まず竹本伸さんがビーチクリーンアップの実
 施方法とレジンペレットについて説明。そして
 浜辺に出て調査。そして解説を聞きながら分類
 しまとめ。やはりカキ養殖関連のパイプ・発泡ス
 チロールのゴミが多かったようです。「何か感じ
 てくれたかなあ。」とは竹本さん、きっと感じてく
 れたと思いますよ！



ビーチクリーンアップ

忙しかった第1回ですが、「家に帰った子ども
 のたのしそうな報告が…」と父兄からお礼の電
 話もあったとの事でした。翌週の西広島タイム
 スにも載せていただきました。

水族館裏方見学・干潟調査 JPR 第2回

<日 時> 2001年7月21日(土)
 <集 合> JPR8:45 スタッフ 8:30
 <場 所> 宮島水族館とその周辺
 <交 通> 宮島口～JR連絡船
 ～徒歩(帰りも同様)
 <参加者> JPR42名、同伴者2名
 宮島水族館 塩田 明仁 他職員や
 水族館ボランティアの方々

文部科学省スポーツ・青少年局 池田 尚
 日本環境教育フォーラム(JEEF):: JPR 本部
 長谷川 佳子
 環境省 門田 和之 桧垣 淳夫
 人間科学研究所 志賀 誠治 内平 八重子
 P V 足立、中川、池下、佐口、小川
 岩崎、柳瀬、矢吹、吉川、平田
 平山、花見堂、松尾 (13名)

＝活動内容＝

今回は、まず船を下りた後歩いて大元公園休憩所で開会式。7月に赴任した門田利用指導官から自然公園について解説。

※ 水族館裏方見学 10:30～

宮島水族館は、国立公園の利用者のための施設ともなっています。今回は、そこで瀬戸内海の生物の学習。水族館につくと1班の子供たちが声を上げました。なぜか前回担当したPVの横山さんが登場。今回の講師でもある水族館ボランティアの一員として水族館の職員の方と待っておられました。午前中は餌の入った冷凍庫や大きな回遊水槽の上などを見学し、昼食の後自由見学とクイズラリー。

※水質浄化実験・干潟の生物調査 13:30～

水槽の中にクロレラとアサリを入れて海による浄化作用の実験を準備し、いよいよ干潟での生物調査。各班にPV2人水族館ボランティア1人が担当し、干潟は様々な生き物が棲む豊かな空間であることを学習。子供たちは楽しすぎてなかなか帰ってこずにスタッフを手こずらせていました。

干潟から戻るとアサリの入った水槽は見事に浄化されていました。大元公園で乾いたのどを潤し水族館の塩田さんたちより、生き物や干潟についての解説や質問、まとめのお話。今回は東京よ共催者の文部科学省から池田さん、JPR本部の谷川さんが視察に見えていたのでお二人から講評や感想の言葉をいただきました。

今回は35℃にも達する猛暑で途中子供たちがバテ気味、皆さんお疲れさまでした。



干潟の生物調査

第3/5回 包ヶ浦体験学習 メダカの教室（観察会）

環境省はメダカを絶滅危惧種に指定している、以前では各地至る所で見受けられたメダカも生息場所が奪われ、最近では貴重なものとなり、宮島では包ヶ浦自然公園の池、入り江だけとなっている。

2回にわたり呼坂さんを講師にPVが協力して小学生の親子グループの体験学習、観察会を開いた。

第3回包ヶ浦体験学習

日時 5月26日（土）10:00～15:00

場所 包ヶ浦管理センター

PV協力者 足立、島、平田、宮崎

参加者 13名

第5回 包ヶ浦体験学習

日時 7月14日（土）10:00～15:00

場所 包ヶ浦管理センター

PV協力者 新川、中本、佛崎、矢吹

参加者 12名

両日ともメダカの形態を学習した後、池で捕獲したメダカのオス・メスの観察、メダカの卵の顕微鏡観察、特に発生段階の進んだ卵についてビデオ観賞のあと実物を観察して一様に感動した様子。

両日とも呼坂講師の熱のこもったレクチャーで自然の大切さ、生命の尊さを十分学習し体験できたものと思われる。

ホタル・螢 乱舞

包ヶ浦事業協力 第4回

自然公園体験学習 (ホタル観察)

日 時 6月23日(土)～24日(日)

場 所 包ヶ浦自然公園

講 師 自然公園副所長 呼坂達夫氏

参加者 7家族19名

日程6月23日(午後2時～)

- ・ ホタルの生態について管理事務所で学習会(宮島にはヒメホタルが生息)
- ・ 雨天のため浜辺の観察は中止
- ・ バーベキューハウスにて夕食(焼肉)
- ・ 夜8時から集団ケビン奥及びキャンプ場でホタル調査を行い多数のホタルが乱舞しているのを発見することができた。(この時だけは雨が止み参加者一同大感激)

6月24日(午前9時～午後2時まで)

- ・ 朝初めにテングサからトコロテンを作り昼食時に食べる。
- ・ 園内の川・池・入り江で生物調査を行いスジエビ・メダカ・ゴリ・チチブ・カニ・アメンボウ・チヌ等を発見した。(このときのチヌは昼食時に刺身にして食べる)
- ・ 園内の植物調査でヤマモモの熟れた実を試食、ヤマボウシの実の調査
- ・ 前夜ホタルが生息していた場所を明るい時に調査

*PV参加者3名(中本、佛崎、末原)
(記録 末原)

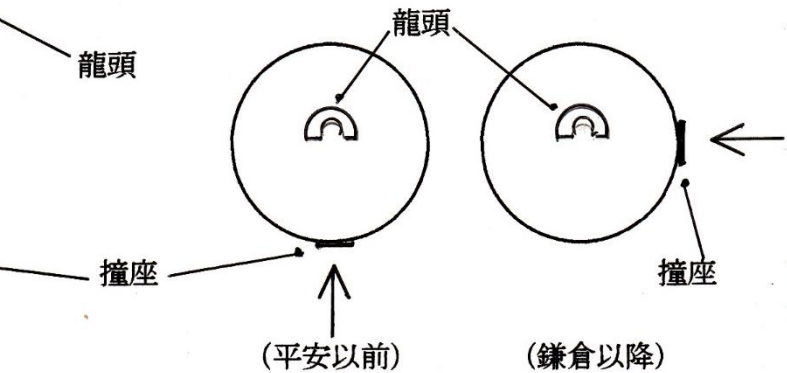
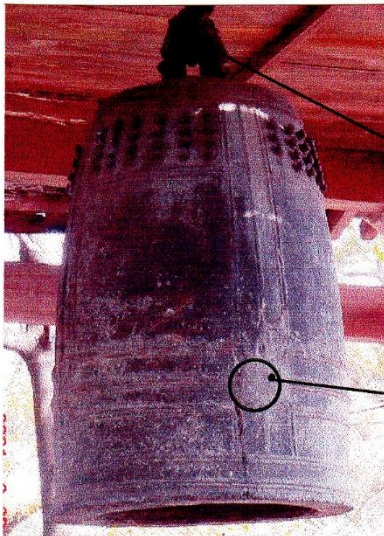


弥山山頂の梵鐘

中 川 正

会員の中道さんが「宮島弥山 史跡巡り」のなかで紹介されている、弥山山頂の水精寺の梵鐘は非常に珍しいものです。源平の戦いの時、壇ノ浦で敗れた総大将の平宗盛が治承元年(西暦1177)に寄進したものです。壇ノ浦の戦いが寿永四年(1185)ですから、その8年前、平氏全盛の時です。

この梵鐘の貴重なところは、平安末期の鐘が現存していることです。梵鐘の形態は鎌倉時代以降大きく変化をしています。平安以前の鐘の大きな特徴は撞座(ツキザ)の方向と上部の龍頭(リウズ)取り付け位置が直角に交わっていることです。写真及び左図で下部の丸い撞座の方に、頭部の龍頭が股を開いた形で取り付けられています。右図のように鎌倉期以降の鐘は龍頭が鐘のつかれる方向に垂直に取り付けられ、撞座の方からは龍頭の股は見えません。



私も、その後いくつか鐘を見て廻りましたが殆どが龍頭が垂直でした。なお鐘楼は弥山山頂に入る大岩の手前にあります。すでに朽ちかけた状態で危険立ち入り禁止地域となっていますので安全には十分な注意が必要です。

秘の趣味

切手の収集

横山 忠司

最近の子ども達には、あまり人気がありませんが私が小学校の頃に始めた趣味の切手収集、もう50年以上になります。

切手は小さな外交官とも呼ばれていて図案、デザイン、彫刻、色彩、紙質、糊質、印刷等々色々な技術を一枚の小さな紙片のなかに国力を尽して表現していますが、そこから溢れ出でくる様々な情報は使用済みの消印を含め、とても魅力的です。

切手の収集は「日本切手」のほかに「電信電話」「絵画」「変り種」「ペンギン」「龍」などテーマ別の収集もしています。

“継続は力なり”といますが切手を整理してきた過程では資料、文献から色々なことを学ぶことが出来ました。例えば「電話」の切手からは、電話は1876年にグラハム・ベルが発明したとされていますが実際にはドイツのフィリップ・ライスが1861年に電話を製作したものの特許を取っていなかったためベルに軍配があがっています。

ドイツからは電話の発明者としてライスの切手が発行されています。

「宮島」に関する切手も多数発行されており、一番古いものは昭和14年発行の普通切手で、最近では今年3月に発行された世界遺産の切手です。

(写真は宮島を描いた昭和の普通切手)

- ① ② ③



- ① 昭14/4 発行 宮島を描いた最初の切手
 ② 昭19/4 発行 戦時中で印刷も不鮮明
 ③ 昭21/4 発行 戦後、目打ちも糊もなし

趣味は①一人で出来るもの ②二人以上で出来るもの ③インドアでの趣味 ④アウトドアでの趣味を組み合わせた多くの色々な趣味を持つと、より人間形成に役立つようです。皆さん方も趣味を通じて人生のなかで多くの経験や知識や知人を得られたことと思います。

PV活動は趣味とは違いますが、アウトドアで多くの人々と活動の喜びを共有出来ることは共通していると思います。

右の切手は今年8月に東京で開かれた日本国際切手展で日本初の「写真付切手」として私の顔写真を印刷した切手です。

今年日本が国連に提案し採択されたボランティア国際年です。あの阪神大震災が起きた1月17日に「ボランティア国際年」の切手が発行されました。

まだ色々興味ある切手がありますが次の機会に紹介したいと思います。



自然公園クリーンデー

今年も8月5日の自然公園クリーンデーに宮島町や観光協会と共催で宮島町内を3班に分かれ美化清掃活動を実施しました。
 参加者 桧垣さん、PV末原さん他14名

▽ ▼ 編集後記 ▼ ▽

▼暑くて長い夏がようやく終わりましたが、皆さん如何でしたか。猛・酷・厳・烈・・・暑さを表現するどのような言葉も今年の夏には不十分の感じでした、来年以降も続くようだとともに強烈な、新しい言葉を必要とするようになるかも▼今号からPV会員の趣味を紹介するコーナーを設け、横山さんに郵趣について紹介して貰いました、皆さんのユニークな趣味について投稿を期待しています。

◆ 次号発行予定のお知らせ ◆

発行予定日	12月 1日
原稿締切日	10月 末日

★事務局から

平成13年度活動参加状況(掲載記事関係分)

50 音順	名前	5月20日 観察会下見	5月26日 包ヶ浦3回	5月27日 弥山観察会	6月3日 JPR1回目	6月23日 包ヶ浦第4回	7月14日 包ヶ浦第5回	7月21日 JPR第2回	9月8,9日 JPR第3回	11月10,11日 JPR第4回
1	浅井 孝夫									
2	麻生 博史									○
3	足立 清	◎	◎					◎		
4	池下 宏	◎		◎				◎		
5	池田 靖夫			◎					○	
6	岩崎 義一			◎				◎	○	
7	小川 加代			◎	◎			◎		
8	木下 三郎								○	
9	倉本 文夫									
10	近藤 芳子				◎					
11	佐口 保雄							◎		
12	島 千代喜		◎							
13	新川 博	◎		◎	◎		◎			
14	末原 義秋	◎			◎	◎				
15	住田 正明									
16	竹内 栄太郎									
17	竹中 康憲									
18	立川 元英									
19	谷口 和昭									
20	中川 正			◎				◎		
21	中道 勉	◎		◎					○	
22	中本 章治				◎	◎	◎			
23	名越 正子				◎					○
24	野呂田 恵子				◎					
25	花見堂 英延							◎		
26	東丸 久									○
27	平田 広三郎		◎					◎		
28	平山 美知子			◎				◎		
29	佛崎 勝弘					◎	◎			○
30	古川 義文			◎						
31	本田 隆徳				◎					
32	松尾 健司	◎		◎	◎			◎	○	○
33	丸平 健二	◎		◎						
34	宮崎 春雄		◎							
35	村上 光春	◎		◎					○	○
36	森 明彦				◎					
37	森川 範吾									
38	森広 香代子			◎					○	○
39	棚瀬 佳史							◎	○	
40	矢吹 俊一				◎		◎	◎		
41	横山 忠司	◎		◎	◎			※		
42	吉川 直樹			◎				◎		
43	六重部 篤志	◎		◎	◎				○	

※横山さんは水族館ボランティアとして出席 #JPR第3, 4回は予定です。訂正などありましたら事務局まで

☆子どもパークレンジャーについて

今年度のJPR事業もあと2回です。
今月8、9日が大久野島、11月10～11日
が戸河内町深入山です。参加予定の方
よろしくお願いたします。

☆自然解説指導者研修について

環境省実施の自然解説指導者研修の内
入門研修に池田さんと森川さんが参加す
ることになりました。10月の2～5日に
山梨県高根町清里です。お二人には皆さ
んに報告していただこうと考えています。

瀬戸内海国立公園

宮島地区 パークボランティアの会

事務局 環境省自然環境局
広島自然保護官事務所
〒730-0012 広島市中区上八丁堀6番30号
広島合同庁舎2号館6階
Tel:082-223-7450/Fax:082-223-7451